＜期末決算補足説明資料＞

２０１９年３月期

決算概要

2019年5月16日

日本タングステン株式会社

■業績サマリー

日本タングステン株式会社

■ 経済環境

海外では
中国や欧州の景況感が弱かったものの、米国経済は引き続き好調

国内では
堅調な企業業績を背景に、設備投資の増加や雇用・所得改善等により緩やかな回復基調を辿る

しかしながら
年後半からの米中貿易摩擦による世界経済の下振れリスク増大や中国の景気減速等により先行き不透明感が強まる中で推移した

鉱工業生産指数の推移

(2015年=100、季節調整済み。19年3月は速報値)

(出典:時事ドットコム)

■当社グループの業績等

日本タングステン株式会社

●損益の状況

（単位：百万円）

	2018年３月期	2019年３月期	対前年比 増減額（増減率）
売上高	11,102	12,651	1,549 (14%)
営業利益	755	1,029	273 (36.2%)
経常利益	980	1,105	124 (12.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	696	831	135 (19.4%)

◆売上高：　増収
・NTダイカッター、ハードディスク用磁気ヘッド基板、治工具製品及びEV用接点製品が増収

◆損　益：　増益
・売上高の増加により増益
・コスト低減施策も寄与

●財務の状況

（単位：百万円）

科目	2018年 3月期	2019年 3月期	前連結会計年度末比増減額
総資産	16，118	16，392	274
負　債	6，540	6，370	△170
純資産	9，578	10，022	444

◆総資産：前期末比、274百万円増加
（流動資産、固定資産ともに増加）

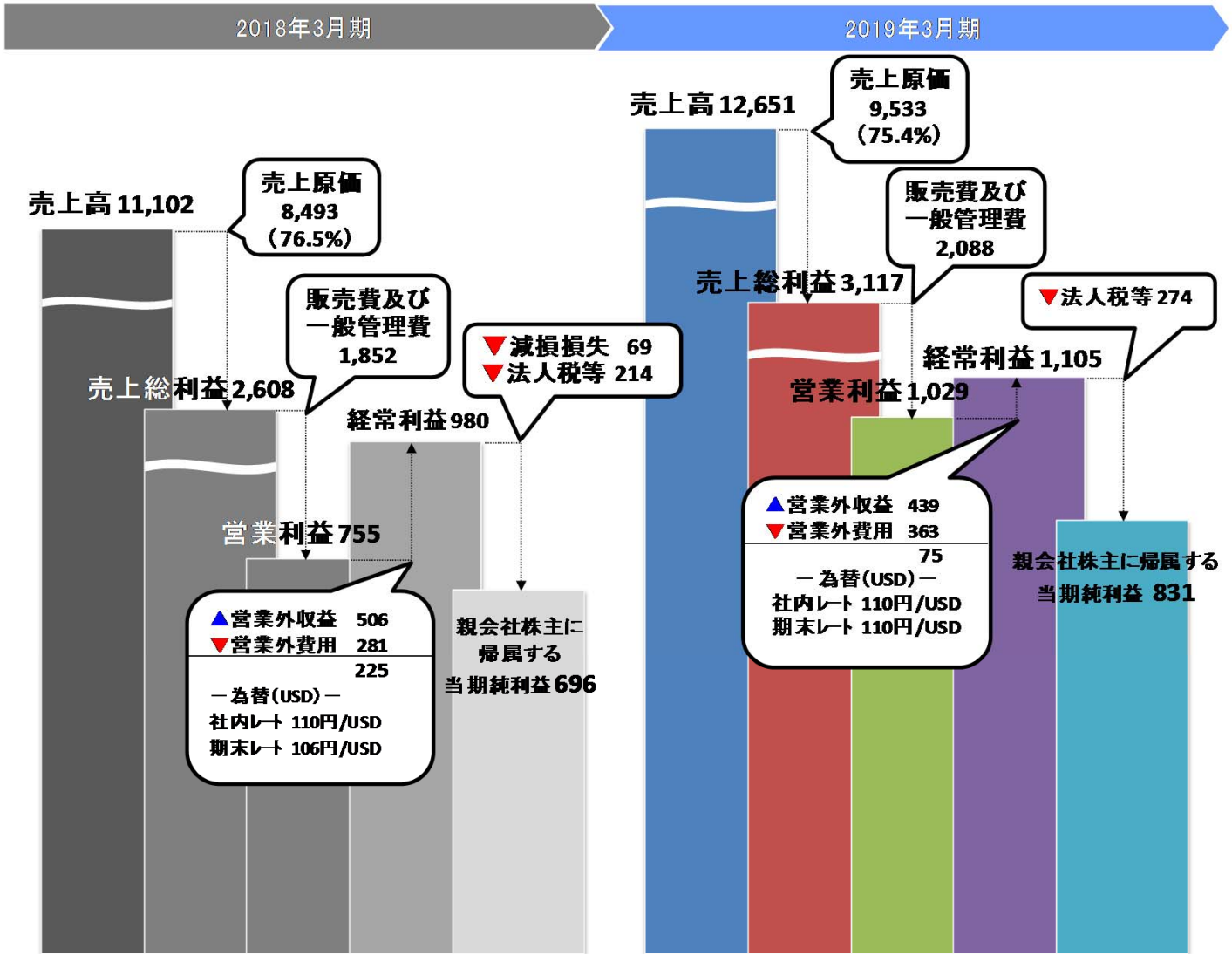
◆負　債：前期末比、170百万円減少
（流動負債、固定負債ともに減少）

◆純資産：前期末比、444百万円増加

■損益の概況（連結）

日本タングステン株式会社

（単位：百万円）



項目	要因
売上総利益	売上高増加により増益
営業利益	販管費が増加するも、品質・生産性の向上、工程内不具合の削減等コスト対策を継続した結果、増益
経常利益	賃貸不動産の計画修繕等による営業外費用の増加で営業外損益が悪化するも、営業利益の増加により増益
親会社株主に帰属する当期純利益	税金費用が増加するも営業利益等の増加により増益

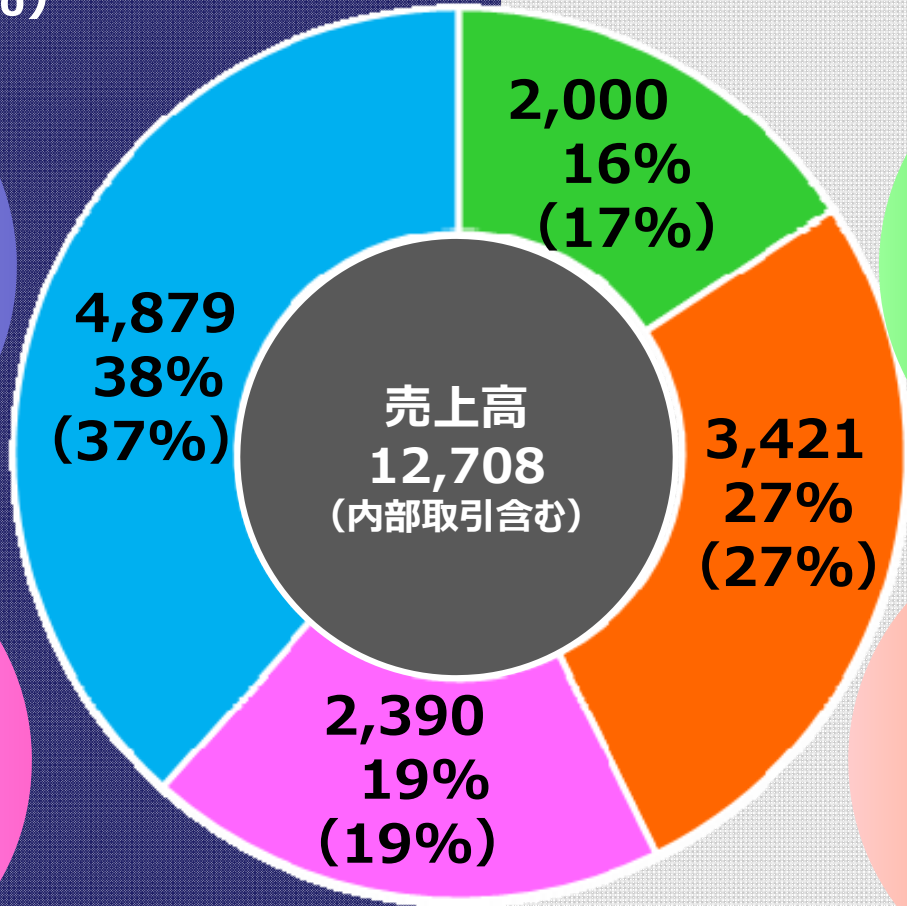
■事業部別売上高の状況

日本タングステン株式会社

２０１９年３月期　セグメント別売上高

機械部品事業　7,270　57%（56%）

電機部品事業　5,421　43%（44%）



超硬合金製品

セラミック製品

金属材料製品

電気･電子材料製品

単位：百万円
（　）は前年度の比率

■事業部別主要製品の状況

日本タングステン株式会社

機械部品事業

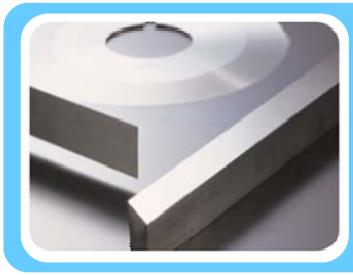
	2018年3月期	2019年3月期	対前年比
売上高 （百万円）	6，233	7，270	1，036 （16.6%）
営業利益 （百万円）	953	1，039	86 （9.0%）

衛生用品関連のNTダイカッター

生産体制の強化を進め、新商品・新技術のイノベーション提案が国内外市場に浸透し好調に推移

情報機器関連のハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板

ニアラインストレージ等の大型HDDの需要が底堅く増収



液晶・電池関連の治工具製品

上期に中国向けの需要が想定よりも大幅に増加し増収

※ 売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

■事業部別主要製品の状況

日本タングステン株式会社

電機部品事業

	2018年3月期	2019年3月期	対前年比
売上高 （百万円）	4，919	5，421	502 （10.2%）
営業利益 （百万円）	281	545	263 （93.6%）

自動車関連のEV用接点製品

北米や中国向けのEV自動車市場の拡大により好調に推移

自動車関連の電極製品

一部製品で低調なものもあったが、電極全体では堅調で増収

タングステンワイヤー製品

カテーテル用等の医療関連が好調に推移し増収

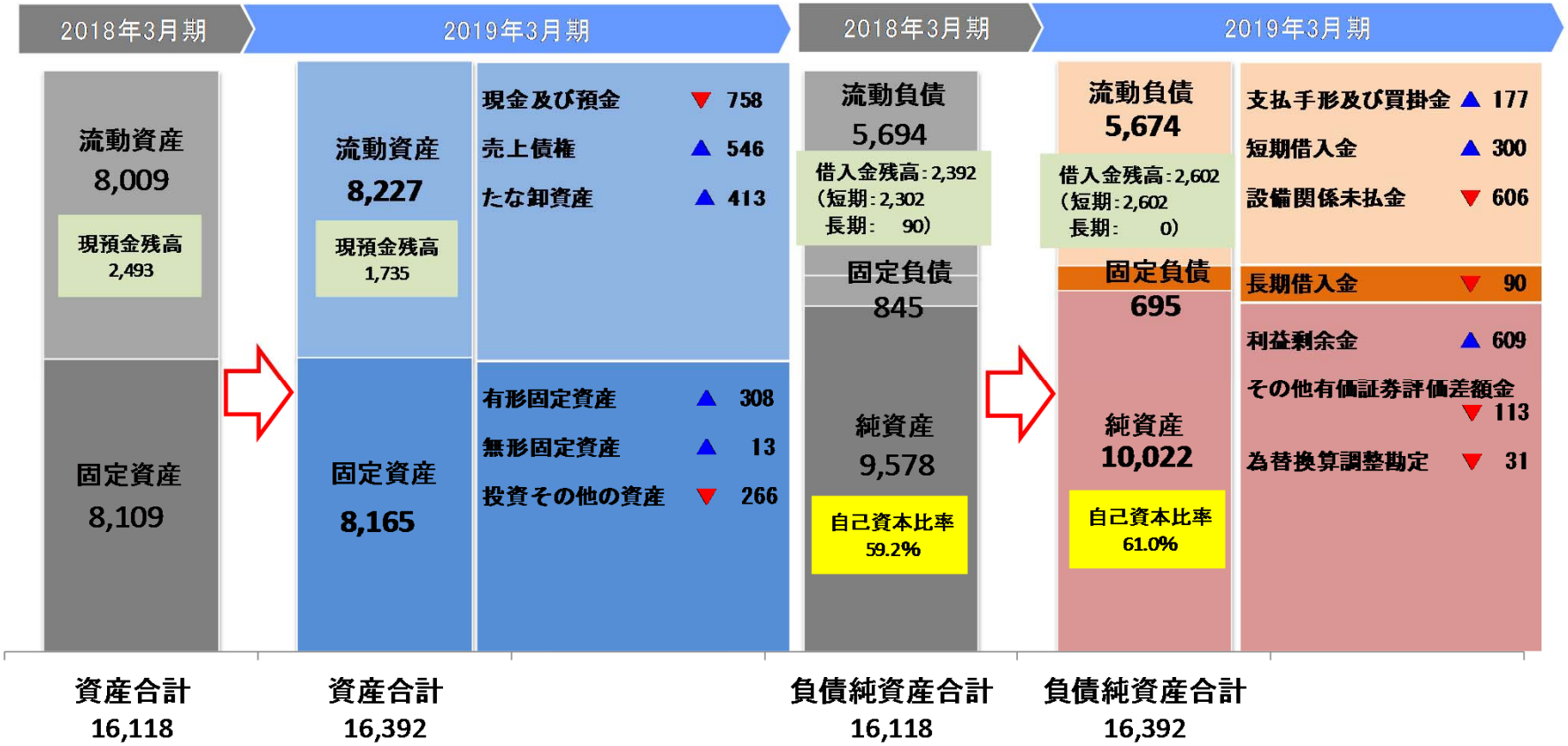
※ 売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

■財務の状況（連結）

日本タングステン株式会社

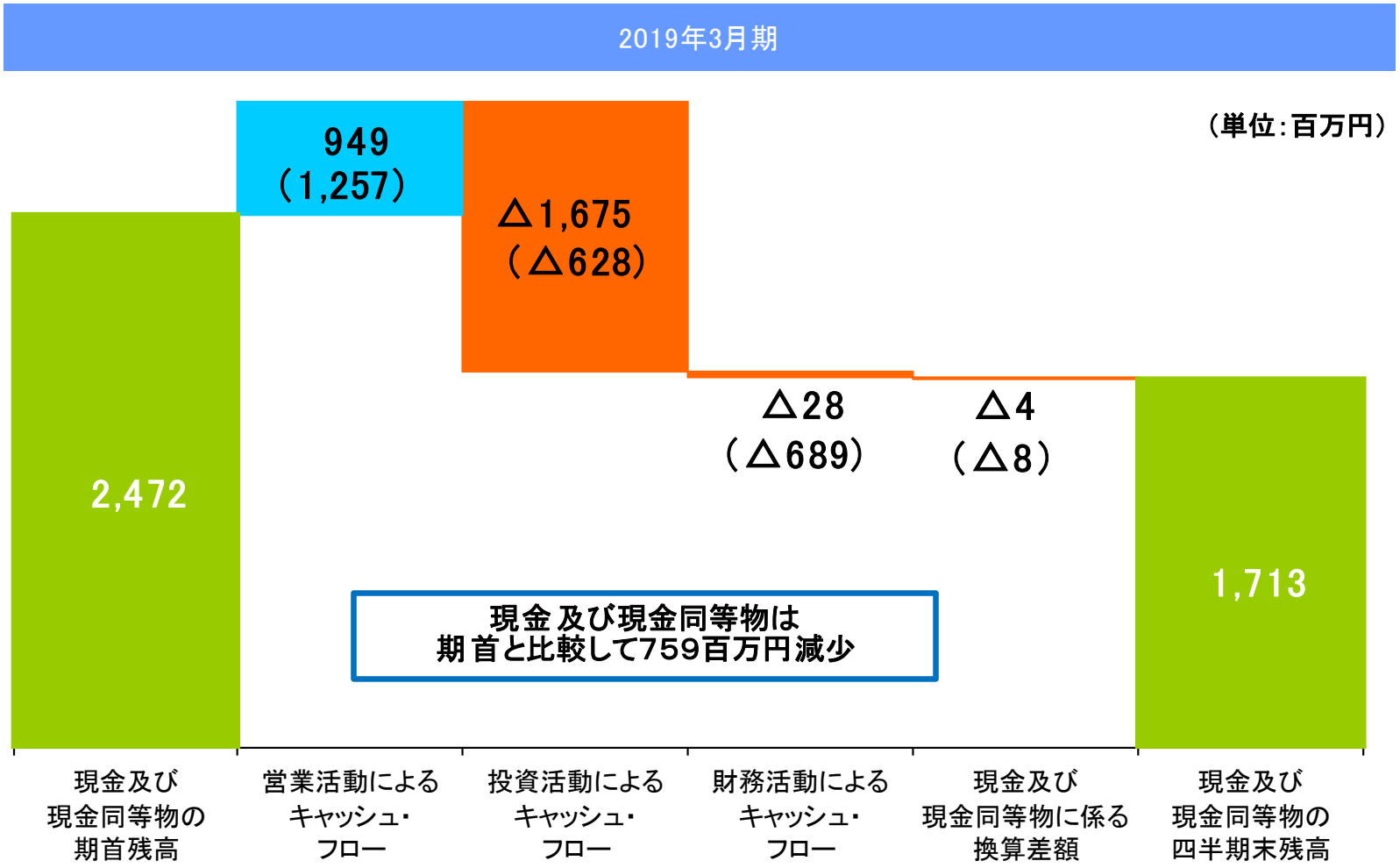
（単位：百万円）

科目	2018年3月期	2019年3月期	対前年比
総資産	16，118	16，392	274
負　債	6，540	6，370	△170
純資産	9，578	10，022	444



■キャッシュ・フローの状況（連結）

日本タングステン株式会社



※（　）は2018年3月期の金額

（注）運転資金の機動的かつ効率的な調達を行うため、2019年3月に限度額20億円のコミットメントライン契約を締結している。

■業績の推移

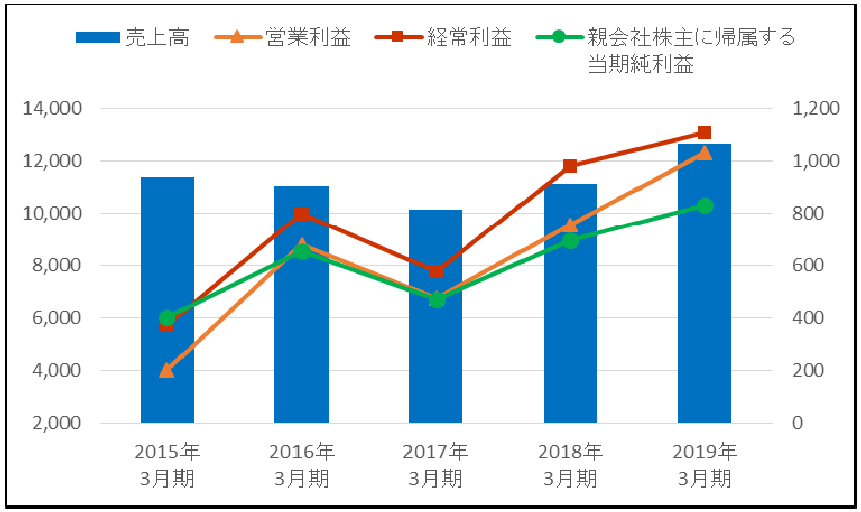
日本タングステン株式会社

■経営成績（連結）

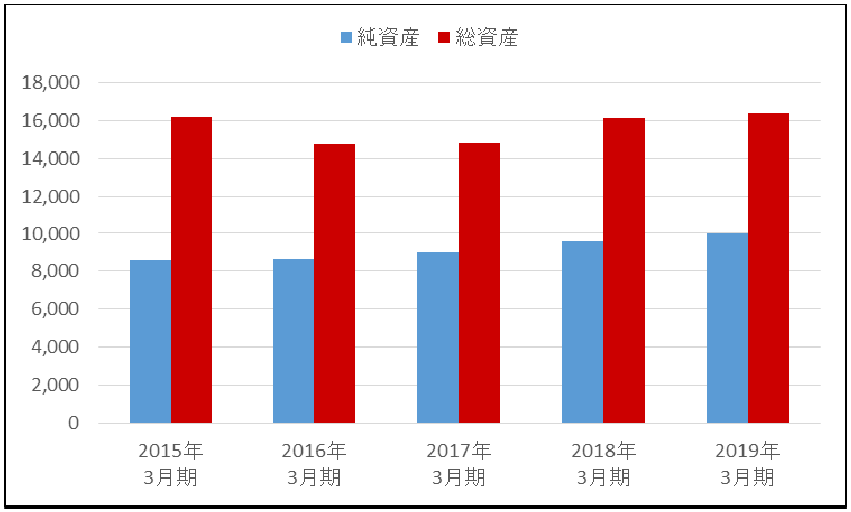
（単位：百万円）

区　分	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期
売上高	11,372	11,022	10,124	11,102	12,651
営業利益	204	678	473	755	1,029
経常利益	372	795	575	980	1,105
親会社株主に帰属する当期純利益	401	651	469	696	831
純資産	8,563	8,652	8,978	9,578	10,022
総資産	16,177	14,777	14,836	16,118	16,392

■売上高・経常利益・当期純利益



■純資産・総資産



■主な経営指標

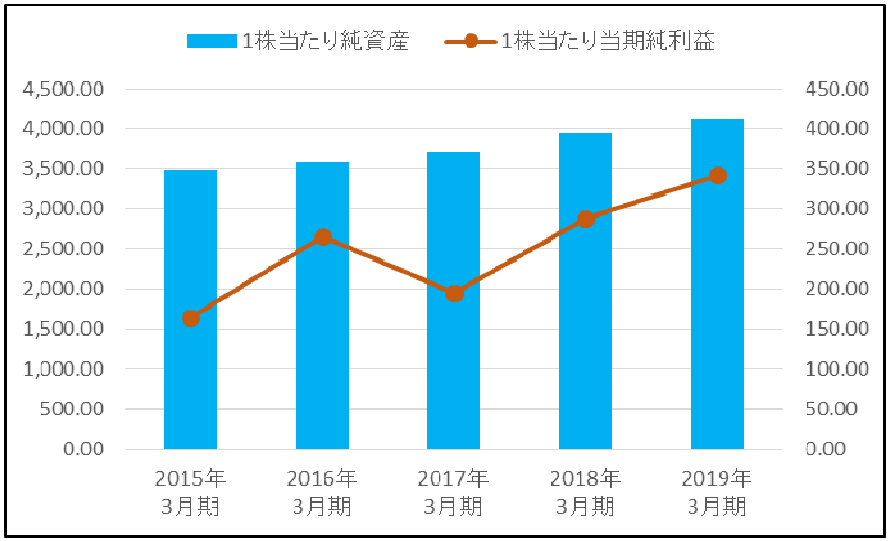
日本タングステン株式会社

■経営指標（連結）

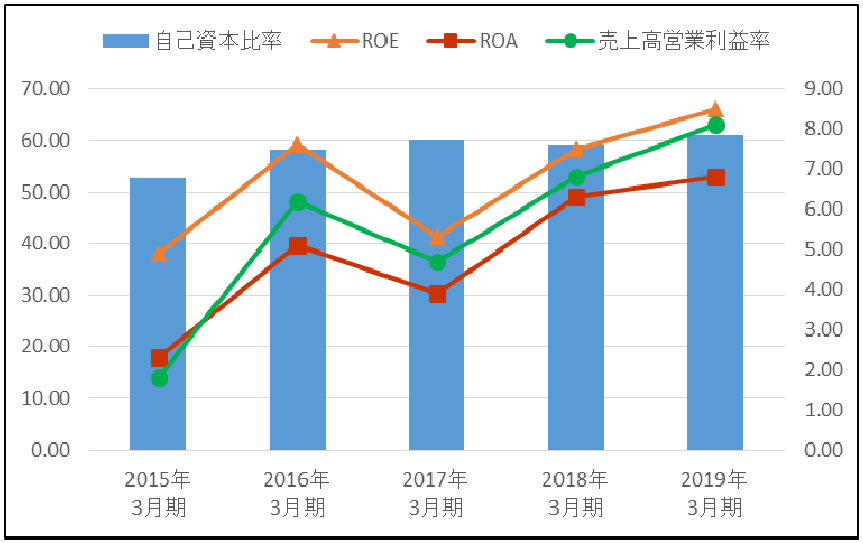
区　　分	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期
1株当たり純資産（円）	3,483.29	3,582.89	3,715.00	3,949.26	4,118.69
1株当たり当期純利益（円）	164.23	266.45	195.02	288.51	342.80
自己資本比率（%）	52.70	58.30	60.20	59.20	61.00
自己資本利益率（ROE）（%）	4.90	7.60	5.30	7.50	8.50
総資産経常利益率（ROA）（%）	2.30	5.10	3.90	6.30	6.80
売上高営業利益率（%）	1.80	6.20	4.70	6.80	8.10

※2017年10月１日付で普通株式10株につき１株の割合で株式併合を実施している。2015年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を計算している。

■１株当たり純資産額・１株当たり当期純利益金額



■自己資本比率・ＲＯＥ・ＲＯＡ・売上高営業利益率



■2020年3月期の業績予想について

日本タングステン株式会社

●2019年度の業績予想について

売上高は2018年度に好調であった液晶関連の治工具製品が減少することが見込まれ、ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板、機械装置及び半導体関連も需要が減少傾向にあることから減収を見込む。

利益面では減価償却費が増加。コストリダクション活動や、間接部門の効率化も一層進めるが、売上高の減少が大きく減益を見込む。

			第２四半期	通期	前期実績（通期）	増減率（通期）
連結	売上高	（百万円）	6,140	12,400	12,651	△2.0%
	営業利益	（百万円）	330	820	1,029	△20.4%
	経常利益	（百万円）	440	1,010	1,105	△8.6%
	親会社株主に帰属する当期純利益	（百万円）	290	740	831	△11.0%
	１株当たり当期純利益	（円）	119.45	304.81	342.80	—

			第２四半期	通期	前期実績（通期）	増減率（通期）
個別	売上高	（百万円）	5,800	11,770	11,983	△1.8%
	営業利益	（百万円）	270	630	808	△22.1%
	経常利益	（百万円）	500	940	1,128	△16.7%
	当期純利益	（百万円）	390	730	943	△22.6%
	１株当たり当期純利益	（円）	160.64	300.69	388.84	—

■2019年3月期 期末配当

日本タングステン株式会社

当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な財務体質の強化等を勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めております。 また、一株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

上記の配当方針及び今後の設備投資等を勘案し、期末配当金は直近の期末配当予想1株当たり50円から55円とする。なお、期末配当金の支払開始日は2019年6月6日となる。

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円 469	百万円 696	百万円 831
中間配当金	円 銭 2 00	円 銭 3 00	円 銭 40 00
期末配当金	円 銭 3 50	円 銭 50 00	円 銭 55 00
配当性向（連結）	28.2%	27.7%	27.7%

※ 2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施している。
2018年3月期 期末配当金については、株式併合後の金額を記載。

■2020年3月期の配当予想について

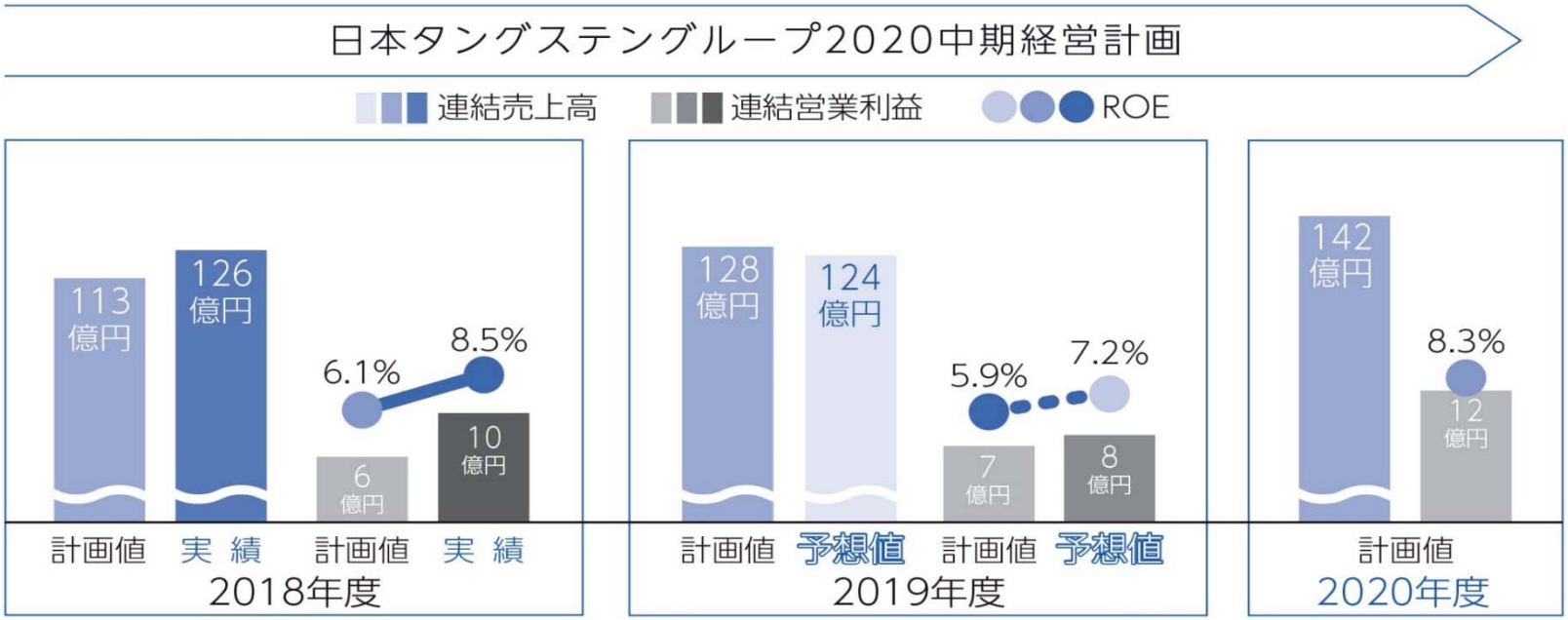
日本タングステン株式会社

■配当方針及び今後の成長のための設備投資等を勘案し、
中間配当金は、1株につき**40円**
期末配当金は、1株につき**45円**　を計画。

	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円 831	百万円 740
中間配当金	円 40 銭 00	円 40 銭 00
期末配当金	円 55 銭 00	円 45 銭 00
配当性向（連結）	27.7%	27.9%

■中期経営計画の進捗について

日本タングステン株式会社



- 2018年度は、主力製品であるハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板、液晶関連の治工具製品、EV用接点製品等が計画より増収となり、計画を達成
- 主力製品であるNTダイカッター製品の中南米でのサービス拠点として、2018年9月24日付でブラジルに子会社を設立し、2019年第2四半期の営業開始に向けて準備を進めている

- 2019年度は、欧米や中国でのEV関連製品が拡大すると予想されるが、2018年度に好調であった液晶関連の治工具製品の受注が大幅に減少することが見込まれ、ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板は受注に一服感があり、機械装置及び半導体関連も需要が減少傾向にあるため、利益は計画を達成する予想だが、売上高は計画から未達となる予想

■その他開示資料について

日本タングステン株式会社

1. 役員等の異動について

詳細は、本日(2019年５月16日)公表の「**役員等の異動に関するお知らせ**」をご覧ください。

■ご注意

日本タングステン株式会社

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。